

うつ病対策として「こころの体温計」の導入を



やまもと かずえ
山本 一恵
議員

質問 心の病は、周りの目を気にするなどの理由で、専門医に相談することの抵抗から、対応の遅れにより重篤化する現状がある。そこで早期発見、早期治療を促進するために、パソコンや携帯電話で手軽に本人、家族がチェックでき、ストレスや落ち込み度がわかるシステムの「こころの体温計」の導入はできないか。

答弁（保健福祉部長） 国は自殺対策基本法を制定し、対策に力を入れている。本村でもうつ病対策と自殺対策等をあわせて考える意味から、映画の上映、講演会や社会福祉士、保健師によ



る月1回の相談会を実施。中央公民館図書室、小中学校図書室に自殺予防関連図書「こころの体温計」については、近隣市町でも導入、活用されており、増えつつある心の病気対策として有効な手段と考えることから、平成26年度より導入する。また、周知方法はチラシの全戸配布、広報に掲載、本村のホームページの1枚目に直接リンクできるようにする。

まちづくり出前講座の充実

質問 生涯学習活動の推進、村政への理解を深め、まちづくりの推進を図る目的で実施している出前講座だが、利用状況及び今後の課題、講座内容の充実について考えがあるのか。

答弁（教育次長） 利用状況については、23年度2件、24年度5件、本年度は現時点で11件である。周知方法は中央公民館内の広報ラック、ホームページ、広報掲載、そして25年1月に一部修正したことにより、ダイジェスト版を全戸配布した。しかし、利用件数及び利用者については、少ない状況にあることから、他の村公共施設等にもチラシを置き、講座の内容、特に行政編の内容の充実も検討する。

答弁（村長） 村民と行政が身近につながるという意味では、この出前講座を通して、いろいろなところに参加していただくことだと思ふ。まちづくりは行政や議会だけでなく、住民の参加があって初めてよりよい地域づくりができる。住民の参加が増えるよう、出前講座をもっと活発に周知していく。



中央公民館事務室前の出前講座チラシ